

中央、軍陸聖典記各令集

680

陸軍刑法、陸軍懲罰令、陸軍省

S. 10. 6. 13

外務部
明治四十一年四月九日
陸軍省
陸軍懲罰令

憲法

防衛

陸軍省
陸軍懲罰令

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸軍刑法ヲ裁可シ茲
之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣 侯爵 西園寺公望
陸軍 大臣 子爵 寺內正毅

16300



法律第四十六號

陸軍刑法

加除改正
昭和十七年二月十九日
法律第三十五號

陸軍刑法目次

第一編 總則	自第二十一條 至第二十四條	一頁
第二編 罪	自第二十五條 至第五十四條	一〇〇
第一章 叛亂ノ罪	自第二十五條 至第三十四條	一〇
第二章 擅權ノ罪	自第三十五條 至第三十九條	一五
第三章 辱職ノ罪	自第四十條 至第五十六條	一六
第四章 抗命ノ罪	自第五十七條 至第五十九條	二二
第五章 暴行脅迫及殺傷ノ罪	自第六十條 至七十二條	二四

目次

一

第六章	侮辱ノ罪	自第七十三條 至第七十四條	三二
第七章	逃亡ノ罪	自第七十五條 至第七十八條	三三
第八章	軍用物損壞ノ罪	自第七十九條 至第八十五條	三五
第九章	掠奪及強姦ノ罪	自第八十六條 至第八十九條	三七
第十章	俘虜ニ關スル罪	自第九十條 至第九十四條	三九
第十一章	違令ノ罪	自第九十五條 至第一百四條	四〇
附則	四四

陸軍刑法目次終

陸軍刑法

第一編 總則

- 第一條 本法ハ陸軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
- 第二條 本法ハ陸軍軍人ニ非スト雖左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
 - 一 第六十四條乃至第六十七條ノ罪及此等ノ罪ノ未遂罪
 - 二 第七十四條ノ罪
 - 三 第七十九條乃至第八十五條ノ罪

四 第八十六條乃至第八十九條ノ罪

五 第九十一條乃至第九十三條ノ罪及第九十一條、第九十二條ノ未遂罪

六 第九十五條第一項、第九十六條、第九十七條第二項及第九十九條ノ罪

第三條 本法ハ前二條ニ記載シタル者帝國外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキト雖之ヲ適用ス

第四條 帝國軍ノ占領地ニ於テ陸軍軍人刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノト看做ス
陸軍軍人ニ非スト雖帝國臣民、從軍外國人及俘虜ノ犯シタル

トキ亦前項ニ同シ

第五條 帝國外ニ在ル部隊ニ屬シ若ハ從フ者又ハ之ニ俘虜タル者其ノ部隊ノ所在地ニ於テ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前條ニ同シ

第六條 陸軍ト共同作戰ニ從フ海軍軍人ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス

第七條 陸軍ト共同作戰ニ從フ外國ノ陸海軍ニ屬スル者ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ外國ニ於テ同一ノ取扱ヲ爲ス

コトヲ保セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 陸軍軍人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ謂フ

一 陸軍ノ現役ニ在ル者但シ未タ入營セサル者及歸休兵ヲ除ク

二 召集中ノ在郷軍人

三 召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人

四 前二號ニ記載シタル者ノ外陸軍ノ制服着用中又ハ現ニ服役上ノ義務履行中ノ在郷軍人

五 志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者

第九條 左ニ記載シタル者ハ陸軍軍人ニ準ス

一 陸軍所屬ノ學生、生徒

二 陸軍軍屬

三 陸軍ノ勤務ニ服スル海軍軍人

前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 陸軍准士官、海軍將校、同相當官、海軍候補生及海軍准士官ハ陸軍將校ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者亦同シ

第十一條 陸軍士官ノ候補者ニシテ下士官ノ階級ニ在リ士官ノ

勤務ニ服セサル者ハ陸軍下士官ニ準ス

第十二條 陸軍ノ兵役ニ在リテ官等、等級ヲ有セサル者ハ兵ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ兵ノ階級ニ在ル者亦同シ

第十三條 在郷軍人ト稱スルハ陸軍ノ現役以外ノ役ニ在ル者、

陸軍ノ現役ニ在リテ未タ入營セサル者、陸軍ノ歸休兵及退役

陸軍將校、准士官ヲ謂フ

第十四條 陸軍軍屬ト稱スルハ陸軍文官、同待遇者及宣誓シテ

陸軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ但シ退職ノ文官ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法ニ於テ海軍軍人ト爲ス

者ヲ謂フ

第十六條 上官ト稱スルハ命令關係アル陸軍軍人間ニ於テ命令權ヲ有スル者ヲ謂フ

命令關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等、等級又ハ階級ノ上ナル者ハ之ヲ上官ニ準ス但シ兵ハ下士官勤務ノ兵ヲ除クノ外總テ同等トス

第十七條 司令官ト稱スルハ軍隊ノ司令ニ任スル陸軍軍人ヲ謂フ

第十八條 哨兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守地ニ在ル陸軍軍人ヲ謂フ

第十九條 部隊ト稱スルハ陸軍ノ軍隊、官衙、學校、特務機關及戰時ニ於ケル陸軍ノ特設機關ヲ謂フ

第二十條 軍中ト稱スルハ左ニ記載シタル部隊ニ在ル場合ヲ謂フ

- 一 戰時ノ體勢ヲ執リタル部隊但シ戰地以外ノ地ニ在ル部隊ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク
 - 二 戰時ノ體勢ヲ執ラサルモ對敵狀態ニ在ル部隊
 - 三 事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎮定ニ從事スル部隊
- 第二十一條 陸軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ陸軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス

改正

第二十二條 多衆共同ノ暴行ヲ鎮壓スル爲又ハ敵前ニ在ル部隊ノ急迫ニ臨ミ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十三條 前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ト爲ルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二十四條 本法及海軍刑法ニ於テ俱ニ罰スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ陸軍軍人ニ準スル者ト雖海軍軍人ニ對シテハ海軍刑法ヲ適用ス

第八十條 露積シタル兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス
第八十一條 火藥、汽罐其ノ他激發スヘキ物ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ

第八十一條ノ二 陸軍ノ航空機ヲ墜落、顛覆若ハ覆没セシメ又ハ破壞シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十二條 第七十九條ニ記載シタル物又ハ陸軍戰鬥ノ用ニ供

スル鐵道、電線若ハ水陸ノ通路ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十三條 兵器、彈藥、糧食、被服、馬匹其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八十四條 第七十九條乃至第八十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十五條 本章ノ規定ハ陸軍ト共同作戰ニ從テ外國陸海軍ノ軍用物ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第九章 掠奪及強姦ノ罪

第八十六條 戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪

シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯スニ當リ婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八十七條 戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ヲ褫奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十八條 前二條ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十八條ノ二 戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ婦女ヲ強姦シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十章 俘虜ニ關スル罪

第九十條 俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十一條 俘虜ヲ逃走セシメタル者八十年以下ノ懲役ニ處ス

俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容

年以下ノ禁錮ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十一年勅令第百六十四號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)
明治十四年第六十九號布告陸軍刑法ハ之ヲ廢止ス

附則

(昭和十七年法律第三十五號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十七年勅令第百五十五號ヲ以テ同年三月十五日ヨリ施行ス)
本法施行前刑法第二十二章ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ第八十八條ノ二第一項ノ改正規定ニ該當スルモノハ本法施行後ト雖モ告訴アルニ非ザレバ其ノ罪ヲ論ゼズ

陸軍刑法 終

ハ輕營倉ニ代ヘ禁足又ハ苦役ヲ科シタルトキハ其ノ重營倉又ハ輕營倉ノ日數ヲ通算スルモノトス

第三十七條 上官ハ部下ノ懲罰處分及其ノ執行ヲ監督スヘシ其ノ懲罰處分ニシテ本令ノ規定ニ反スルモノアルトキハ其ノ罰目罰期ヲ變更シ若ハ懲罰處分ヲ取消スコトヲ得但シ故意過失等犯行ノ性質ニ對シ認定ヲ異ニシタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 前條ニ依リ罰目罰期ヲ變更シタルトキハ既ニ服罰シタル日數禁足又ハ苦役ヲ執行シタル場合ニハ其ノ服罰日數ニ相當スル重營倉輕營倉ノ日數ハ新罰目ノ日數ニ通算ス但シ重謹慎輕謹慎又ハ重營倉輕營倉ヲ通算スル場合ニハ重謹慎又ハ重營倉一日ヲ輕謹慎又ハ輕營倉二日ニ換算ス

第三十九條 親補職タル將官ニ對シテハ本令ヲ適用セス

第四章 處罰

第四十條 懲罰處分ヲ爲スニハ犯行ノ事實ヲ審査シ其ノ弊害ノ程度、犯行ノ情狀其ノ他受罰者ノ性行等ヲ斟酌シテ罰ヲ定ムヘシ但シ第二十七條ニ依リ懲罰處分ヲ爲ス場合ニ於テハ本屬長官ニ協議スルモノトス

第四十一條 免官降等ハ犯行重キ者又ハ屢刑罰若ハ懲罰ノ處分ヲ受ケ仍改悛ノ狀ナキ者ニ科ス

第四十二條 重謹慎重營倉ハ故意ニ係ル犯行ニ科シ輕謹慎輕營

倉ハ過失ニ係ル犯行ニ科スルヲ例トス

第四十三條 懲罰處分ヲ爲スハ口頭ヲ以テ詳ニ犯行ヲ示シ其ノ懲罰ヲ言渡スヘシ若シ犯行者ノ所在地遠隔スルトキハ言渡書ヲ作り之ヲ其ノ直屬上官ニ送付シ同官之ヲ讀聞カスヘシ但シ直屬上官在ラサルトキハ本人ニ送付スルモノトス
前項懲罰ノ言渡ハ必要ニ應シ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ所屬部隊中ニ公示スルコトヲ得

第四十四條 懲罰ノ言渡ニハ受罰者ノ直屬上官若ハ受罰者ト同官等同等級以上ノ者ヲ陪列セシムルヲ例トス

第四十五條 懲罰ハ言渡後直ニ之ヲ執行ス但シ勤務其ノ他ノ必

要ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止スルコトヲ得

前項猶豫又ハ停止ノ日數ハ懲罰期間ニ算入セス

第四十六條 戰時又ハ事變ノ場合ニハ懲罰ノ儘服務セシムルコトヲ得但シ其ノ服務日數ハ懲罰期間ニ之ヲ算入ス

第四十七條 重營倉輕營倉ニ處セラレタル者ハ其ノ所屬部隊ノ營倉ニ鋼シ所屬部隊ニ營倉ナキトキハ附近ニ在ル部隊ノ營倉又ハ憲兵隊ノ留置場ニ鋼スルモノトス

第四十八條 懲罰執行中疾病ニ罹リタルトキハ醫師ノ診斷ヲ受ケ水火等ノ災害ニ際シテハ防救遷徙スルコトヲ得

疾病中ノ者ハ診斷ノ結果ニ依リ懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ

得但シ其ノ停止日數ハ公務ニ基因スル疾病ニ依ル場合ヲ除ク
ノ外懲罰期間ニ算入セス

第四十九條 犯行アル者轉職又ハ轉隊スルトキハ懲罰ノ言渡ヲ
爲シ之ヲ執行シタル後出發セシムルモノトス但シ第四十五條
但書及第四十六條ノ場合ニ在リテハ懲罰ノ儘轉職又ハ轉隊セ
シムルコトヲ得

第五十條 轉職又ハ轉隊シタル者ノ舊所管ニ於ケル犯行發覺シ
タルトキハ新舊上官協議シ新上官之ヲ懲罰スヘシ

前項ノ規定ハ第六條及第二十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十一條 免官降等ニ處セラレタル者懲罰執行中ノ者又ハ懲

罰執行猶豫若ハ停止中ノ者ニシテ特ニ功績、勤勞アルトキ若
ハ改悛ノ狀顯著ナルトキハ其ノ官等等級ヲ復シ又ハ其ノ懲罰
ノ執行ヲ減免スルコトヲ得但シ之ヲ復スルノ手續ハ官等ニ在
リテハ任官、等級ニ在リテハ進級ノ例ニ依ル

第五十二條 懲罰ノ執行ヲ終リタルトキハ第四十四條ニ定ムル
者ヲ陪列セシメ受罰者ヲシテ將來ノ改悛ヲ誓言セシムヘシ

雜 則

第五十三條 犯行ヲ審理スル場合ニ於テ犯行者ヲ營倉ニ留置シ
又ハ其ノ勤務ヲ停止スルコトヲ要スルトキハ其ノ罰權ヲ有ス

ル上官之ヲ命シ該上官在ラサルトキハ犯行者ヨリ上級ノ者假
ニ之ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 懲罰期間ノ計算ニハ執行ノ初日ハ時間ニ拘ラス一
日トシテ算入シ重營倉輕營倉ノ解網ハ其ノ期間滿了ノ翌日午
前ニ於テ之ヲ行フ

第五十五條 軍人ニシテ軍紀風紀ニ有害ナル行爲アルトキ之ヲ
現認シタル上級者ハ訓誡制止シ尙懲罰ニ處スルノ必要アリト
認メタルトキハ本人所屬ノ上官ニ申報スヘシ

第五十六條 俘虜ノ懲罰ハ免官降等ニ關スルモノ 除クノ外其
ノ官等等級及身分ニ應シ第八條ノ罰目ヲ準用ス

附則

(大正八年軍令陸第十八號)

本令ハ大正八年四月十二日ヨリ之ヲ施行ス

(大正八年八月十九日軍令陸第二十二號)

本令ハ大正八年八月十九日ヨリ之ヲ施行ス

(大正十年八月五日軍令陸第八號)

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス